

北海道教育大	○勘川	従子
北日本学院大	伊関	英子
	小泉	正子

1. 衣服寸法の基準を設定する目的で、旭川市の幼児小・中・高・大学生、成人の身体計測を行なったので、その結果を報告する。

2. 資料は1966年計測の小・中学生及び、1967年計測の幼児、高校生、大学生、成人のうち4歳、7歳、10歳、13歳、16歳、19歳、成人(22~29歳)の7年令、男女664例について16項目の計測値をもとに、体型の推移と衣服寸法要部の相関関係について、検討を試みた。

3. 全国平均、北海道平均との身長、体重、胸囲の3項目を比較すると、7歳、10歳、13歳の旭川平均値が優位であり、ことに体重の上廻り方が大きく、長身かつ肥満型のプロポーションを示す。年令別体型を成人値を基準に比較すると、身体の各部位が成人値に近づく経過は、特有の動きを示すが、男女とも4歳、7歳、10歳は類似したプロポーションを示し、13歳以上の年齢で成人体型へ近づくが、13歳と16歳は類似した体型で、成人体型とやや異なり身長、膝高、後胴高、胴囲が大きい。性差の推移を11項目について、各年齢間の男子平均値に対する女子の比率によって比較すると、7歳以上の年齢に徐々に性差を示す項目が増加し、13歳では著しい差がみられ、更に19歳で腰囲を除く各項目で男子優位となり成人男女の体型が形成される。

身長と各部の相関は長径項目が高く、周径項目が低い。若年齢より高年齢にこの傾向が顕著であり、胸囲に最も著しい。